

## ビワマスの養殖実用化研究の経過

田中秀具・西村哲也\*

### ◆背景・目的

醒井養鱒場で作出した高成長系ビワマスを用いて、ビワマス地域特産養殖魚とすべく、実用化研究を実施している。ここでは平成17年(前報告)以降の経過概要を述べる。

### ◆成果の内容・特徴

- ・2005年に、醒井養鱒場保有の継代魚(12F,03群)は月齢20齢で平均体長41cm、体重1017gに達し、養殖魚として実用的な成長をすることが確認できた。
- ・高成長系ビワマスは2年で世代交代となるため、間の年用として、上記12Fの早熟雄(0+)と琵琶湖産雌親魚の交配により13B(04群)を作出した。
- ・2005年秋に12F(03群)から13F(05群)を、2006年秋に13B(04群)から14B(06群)を継代、作出した。
- ・04群、05群は、低成長魚や早熟雄等は選別淘汰し、大型魚に育成しているが、これらの成長は初代高成長群(養殖1号)や上記12F(03群)と比較して、飼育途上で密殖の影響によると思われる成長停滞はあるものの、月齢20齢には遜色なく実用的な大きさ(体長40cm)となっており、高成長系としての形質を維持している。また、06群も月齢15齢現在、同様の成長を示す。(下図)
- ・なお、生産規模は大型魚(1kgサイズ)で1,000尾/年の生産が可能となった段階である。
- ・2006年から全雌三倍体の量産化に取り組んでいるが、現在のところ倍化率(三倍体になる率)が57%と低く、未だ実用化には至っていない。

### ◆成果の活用・留意点

- ・現在醒井養鱒場にて量産化と試験販売に取り組んでいるが、特産養殖魚としての定着のためには、民間の養鱒場への普及が必要である。
- ・ここに述べた生育成績は醒井養鱒場の飼育水(12℃)での結果であり、他所での検証が必要である。
- ・早熟雄が多いことや、大型魚としての商品価値の高い期間が短い事の解決と、更なる大型魚(2kgもの)を生産する為、全雌三倍体の量産化を図る必要がある。

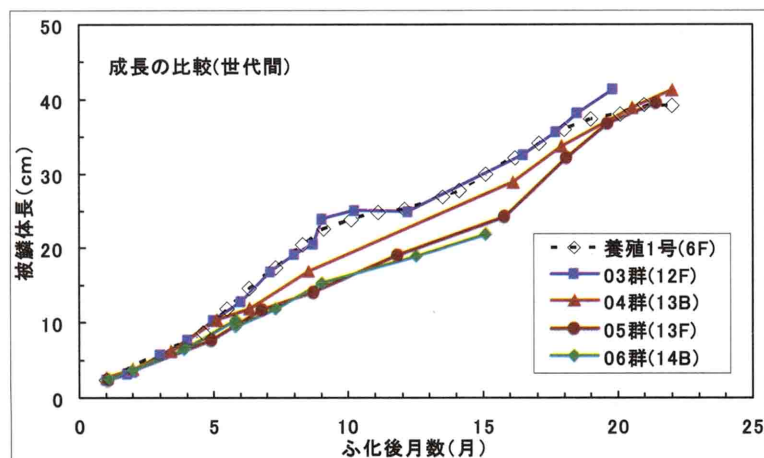


写真: 養殖ビワマス(2007年秋、05群)

\* ) 所属: 滋賀県漁業協同組合連合会醒井事業場